（一）　第貳百六拾壹號　（昭和27年9月25日第三種郵便物認可）　THE MIIKE　（毎週木曜日發行）　昭和二十七年（1952）十二月十一日　（木）

發行所
三池炭鉱労働組合
大牟田市不知火町
電話3033番
炭電528 475番

編集發行人　平島敏治
三鉱労組印刷工場

三鑛勞組機關紙

非常事態宣言

八月二十五日團體交渉を開始して以來、石炭鑛業連盟は「炭鑛勞働者の賃金は安くない」「炭鑛勞働者の生活は安定している」等暴言を恣にして賃金切下案を固執し、十月十七日遂に吾々は無期限ストライキに突入するの止むなきに至つた。

すでに吾々のストライキは五十日に及ばんとしている。この間彼等は依然としてその態度を改めないのみか組合員の生活困窮につけ込んでスト切崩しに狂奔している。

このことは嘉穂炭鑛、古河好間炭鑛の暴力團によるスト破りに端的に現われている。

かゝる挑戰にもぢつと耐え忍んだ吾々に對して、團交再開後も彼等は賃金の現行横辷りを主張してベース・アップは絶對にしないと豪語している。

然るに一般産業勞働者と比較すべき炭鑛坑外夫の賃金平均は實に七、五〇〇圓という低額である。

現在公務員給與の人事員裁定は一三、五五〇圓（現行に比し二七%增）が出され、中勞委は電産に對して勞働組合が滿足しないものですら一五、四〇〇圓（現行に比し二二%增）の斡旋案を示しているのではないか。むつかしい理屈は抜きにしても社會通念として今勞働者の賃金を切下げるようなことは絶對許せない。

亦炭鑛經營者の儲けを見ても吾々の賃金が横辷りでなければならない理由は見當らないのである。

連盟はこうした明らかにベース・アップの必然的な現實を無視して何故横辷り案を固執するのか、これこそ連盟の飽くなき利潤追及と資本蓄積の野望であり、彼等の企圖する切崩しによつて近い將來炭勞は一大混亂と共に組織的闘爭態勢が崩壊するという確信によるものである。

今や一錢の收入もなく五十日にわたるストライキは吾々を飢餓線上に追込み、家庭生活は全く破壊されんとしている。一方ストライキによる石炭の缺乏はガス制限、列車削減等國民大衆の生活を犠牲にしようとしている。しかし乍ら吾々炭鑛勞働者の敗退は全勞働者の敗退であり、同時に生産意欲沮喪が國民生活を支える石炭生産性の低下となつて現れる事を知つている。

今こそ吾々が一切のためらいを排して断固たる決意と全生命をかけた決戰の秋である。

連盟がなお頑迷な態度をつゞける限り吾々は保安要員の總引揚げを決行する時期の迫つた事を率直に告げ茲に非常事態を宣言する。

國民諸君よ、吾々は奴隷賃金より生活を守り勞働者を犠牲にしてまで利潤を追及せんとする資本家と反動政權に最後の反省を求めるのである。そして又これが吾々に殘された早期解決への唯一の道であり、破壊でなくて建設の爲の重大なる決意であることを諒解していたゞきたい。

一九五二年十二月一日
日本炭鑛勞働組合
中央闘爭委員會

◇附録をよく読んで下さい

書記局便り

十二月四日　闘争中央執行委員会
〃　六日　県総評蹶起大会
〃　六日　懲戒委員会確定言渡
九日　無記名投票
〃　七日　東圧並に三染労組より運輸事情聴取

全自の壓力に
會社側軟化

二十七日のゼネスト決行後行われた全自の三社、その他の交渉では三十日以降の全面ストの決意によつて会社側は動揺、ストを回避して賃上拒否の態度撤回の色を見せた。

一、一時金は二万円乃至二万五千円
一、昇給一千円

の線を出して来たので、組合は完全獲得のため依然強力な交渉を進めている、なお会社側の強硬な高速機関は三日正午からストに入つた。

愈々決戰段階に突入
斡旋案を断乎拒否
保安要員全員撤收を決定

八日全國民注視のうちにひらかれた第三十回中闘委員会は、中労委斡旋案を條件付で受諾するとの戦術委員会の結論をひるがえし、廿九対廿八で断固拒否する事に決定、翌九日午前十時から炭労本部で引續き中闘委員会をひらき斡旋案拒否後の戦術につき論議した結果、次の結論に到達した。

一、斡旋案拒否した後の戦術としては諸般の事情（職組全体の態度あるいは炭労組織の残された戦術等）を考慮判断した結果昨夜徹宵した執行部を含む代表者会議（拡大戦術委員会を含む）の経過として

1、六十日に及ぶ長期ストを決行した今日、我が方の戦力にも多大なる消耗あり、その限界点に達しつゝある事は率直に認めざるを得ない。

2、今日の段階に至つては最早最後の総力を動員する以外に方法がないと判断する。従つて戦力を最高度に発揮する為には残された戦術である「保安要員全員撤収」以外に方法を見出せない。

3、では決行出来るかどうかを検討する必要がある。然しながらこの会議では直ちに決し兼ねる。

等の報告がなされ種々論議されたが正午に至り各資本別毎に協議する事になり休会し午後四時再開した。

二、労組側は万場一致を以て保安要員全員撤収の戦術を決定したが昨日同様職組側に難点あり調整困難なる事が明確になつた。時に労組側より同一行動を強く職組側に要望した。

三、決行の方法、時期については戦術委員会にて検討する事を一任した、九日現在戦術委員会開催中

四、オルグ派遣の件
戦術委員会の結論により十日中闘委員会を開催してオルグ派遣を決定する。

五、明日以降炭労としては面子を放棄して団交再開等に関しての一切の努力を行う。

拒否までの経過

七日午前一時中労委より大要次の如き斡旋案が提示された。

1、標準作業量は現行通りとする
2、基準賃金は現行の七%増とする
3、その他月額三〇〇円の手当を支給する
4、五、〇〇〇円の貸金を行う（条件は別途話し合う）

以上の提案に基いて直ちに戦術委員会を開催しこの日

イ、斡旋案を中心に努力する
ロ、拒否して再高度の戦力を発動する。
ハ、最終的案を提示してそれを実力により闘いとる

以上種々論議された結果中労委に対する意志表示として斡旋案は基本的には不満であるが、諸般（組合内部事情を含む）の事情により斡旋案を原則として認めざるを得ないとの結論に到達、八日午後三時廿分から全国民注視のうちに開かれた第三十回中闘委員会は、これをめぐつて白熱的論議を展開したが組織上の問題まで論議が発展し午後六時五分に至り一旦休会午後六時四十分に再開された。再開と同時にふたゝびはげしい討議がなされたが意見の一致をみるに至らず、最後の方法として無記名投票による裁定方法がとられた結果戦術委員会の結論賛成二八票対二九票で一票の差をもつて戦術委員会の結論が否決された。

電報

全組合員の團結と戰力を堅く信じ
保安要員全員撤收を決行することを確認した
四萬八千の組織の運命と勝利を此の一戰に托し
總力を擧げて我等最後の戰を決行する
三鉱連

前進

闘争はなぜ長引くか
—日經連の政治的企圖—

今次の賃金闘争が何故に未曾有の長期ストという形に於て闘われねばならなかつたか—この理由を知るためにもまたこの闘争のほんとうの意義を理解するためにも、そして今後の労働運動の方向を定める上にもこれまで度々指摘したところであるが日経連＝日本経営者団体連盟＝の政治的企図について充分の認識をもつておかなければならない。

それは一口に言えばアメリカの世界的軍拡政策という輪の中で反動政権と独占資本が馴れ合い合作することによつて日本再軍備体制の布石を完了しようという構想に外ならない。

国民の知らぬ間に安保条約とか行政協定とかが結ばれて「平和」条約だ「独立」だのとその筋あたりでは提灯行列でもし兼ねまじい威勢であつたが、今日われわれの知り得た現実とはおよそ日本の全島軍事基地化であり、治外法権であり「平和」に非ずして「戦争」準備であり「独立」に非ずして植民地化することに外ならなかつた。

かくして防衛生産＝日米経済協力の掛け声の下に日本の軍事予算編成と軍需産業再建が着々と急がれている。しかもそれはアメリカの軍需下請工場として散々に買叩かれる出血受註（赤字下請）というみじめな形で行われているのだ。

これでは賃金を引上げるところの騒ぎではない。吉田さんは曾つて「豊富」「低廉かつ勤勉な労働力」としてしかも日本経済の長所として得々と誇らしげに語つたことを想起してもらいたい。

「この際ベース・アップを認めることは日本経済の将来に禍根を残す」という日経連の言辞と思い合せて、いまの政治指導者と資本家が何を企図しているか明らかではないか。

アメリカ軍拡経済の破綻から予想されている世界的な恐慌危機を脱出するために追ひこまれた再軍備経済とはいえるが、軍拡によつて起きた恐慌を軍拡によつて打開しようということ自体に矛盾がある。それと知りつゝなお軍需生産にしがみつかざるを得ない所に独占資本主義の末期的なあがきが読みとれる。たからといつてわれわれはこれを自業自得と笑つている訳にはいかない。すべて彼等の重荷はわれわれ労働者に背負わされるのだ「賃金切下げ」「長時間労働」「標準作業量引上げ」そして行きつく先は企業合理化という「首切り」である。時需というのも日本の低賃金、劣悪な労働条件を当てこんでの打算の上に立つている。もとでをかけずに儲かればこその話である。

この様な方式による日本経済の設計を実現するためには目覚めつゝある民主的勢力は靴の中の小石の様に邪魔である。占領下ならば超憲法的権力もあつたが独立後は自力による外はない。先ず自己の勢力を結集することと日経連という資本集団の登場がそれである。そして権力と結んでねんごろになることと—総選挙資金の調達となる。いま問題化した「炭住金利引下げ」などほんの一例に過ぎない。総選挙を前に二十三億もの国費が闇取引にも等しいやり方でその債務を帳消しにして石炭企業に還付されていた。こんな旨い汁が吸えるから一億円もの選挙費を使つてでも代議士になろうという御仁も出てくる訳だ。

こうして総資本（とそのお抱え政権）の民主陣営に対抗する戦略体勢は整えられた。

第一の矢は総評秋季攻勢の主軸を荷う電産、炭労の賃金要求に向けられた。それは経済闘争でなくして政治的要求であるという言いがかりをつけバスケ方式そのものに因縁をつけることから果ては総評は第二共産党であり、その幹部（炭労もしかり）は容共派であるという中傷デマまで飛んだ。交渉方式にしても統一交渉は階級闘争であつて賃金要求方式としては資本別交渉こそ正当であるなど、こうした世論の造出に躍起となり専ら組織の分裂工作、幹部と組合員大衆との離間工作、切崩し抱込み工作に懸命であつて、要求案の検討は棚上された事実は一体何であろうか。これこそ賃金改訂に実力行使する如き組合運動の在り方そのものを否定しようという年来の宿望（これはゼネ禁立法化を試みたことより明白）をこの際遂げようという政治的な底意に外ならない。

更にまた日経連が「ベース・アップを拒否することが労働運動の左傾化を防ぐ」ものと決議した事実からしてもその企図を窺がうことができる。

整然たるスト六十日、手に負えなくなつた彼等は強権の介入発動を唆のかしている。いまこゝに政治闘争或ひは階級闘争の論議をする暇はないが、いまや明白なことは日経連自体こそ再軍備体制への機運醸成のために民主的勢力の愛労化を企て、政治的挑戦をわれわれに挑んだものであることを、今次闘争の批判に当つては見誤つてはならない所である。

これが闘争長期化の原因でもあり、また日本の政治経済の方向が改まらない限り今後といえども変らない闘争の性格となるであろう。

期末手當闘爭
共闘會議發足に努力
提出時期は各山連絡の上論議

期末手当に関しては五日午前十時から三鉱連の第二回闘争中央委員会、引続き午後二時から炭労ブロック会議をひらき、論議した結果を六日の第三回中闘委員会で左の如く報告

イ、本日のブロック会議は第一回の期末手当共闘連絡会議とする。

ロ、各社の動向

三菱—七日中央委員会を開催し額その他の決定をなし、八日に要求書を出す予定額二万円
北炭—四日機関を召集し、要求額一九、五〇〇円を決定、五日要求書を出した
住友—要求額二万一千円、四日要求書を出したが、団交は別途行う事を合せて申入れをしている
明治—七日幹事会で決定し、八日要求書を提出する予定額は前期の見込
古河—賃金中闘が期末闘争中闘を賃金の関連の上に於て要求する権限を持つているが、具体的なものは召集の上行う予定である
雄別—四日執行委員会を開催、要求額は一九、五〇〇円であるが七日に交渉員を召集し、その上で具体化する
太平洋—要求額は一九、五〇〇円

ハ、要求理念については各社毎に行う事を申合せた（大体前回通り）

ニ、スト権集約の情況は左の通り

北炭—総会を開催して十日までにやりたい。
明治—北海道は終つたが、九州はまだ終つてない
古河—指令済
雄別—十日迄やる予定
太平洋—大会を開催して十日迄やる予定

ホ、局長の共闘参加について局長を原則として参加させる。

ヘ、要求書提出日、原則として速かに出す。

ト、交渉開始時期については色々考えもあつてあらためて討議する。

以上の報告に基き

一、三鉱連要求書提出の時期についてスト権集約、指令との関係もあるので、各山とも再度連絡を取つて後日論議することゝする。

二、又共闘会議については中央委員会の結論に従つて完全なる共闘会議の発足をなすように働きかける事を決定して当日の中闘委員会を終了した。

ミジン搖がぬ闘志
期末手當　無記名投票結果
賛成九十七%強

期末手当のスト権票約に関する無記名投票は六日から九日正午まで社宅は各地域分会で、外来は各所属支部事務所、その他荒尾駅前（四山）白金、県境（三川）に夫々出張投票所を設けて行われた結果総投票数一二・九九六票、内賛成一二・六三七、反対二九四、無効白紙六五、投票数に対する賛成率九七・二四%という圧倒的多数でスト権委譲が決定された。支部別内訳下記の通り

支部名	投票数	賛成	反対	白紙無効	賛成率
宮浦	2.368	2.321	40	7	98.01%
四山	2.105	2.038	52	15	96.82〃
三川	3.906	3.780	98	28	96.77〃
本所	2.089	2.044	41	4	97.85〃
港務	1.253	1.210	35	8	96.56〃
製作	1.275	1.244	28	3	97.56〃

我等携えて決戰に！
福岡縣勞働者總蹶起大會意氣擧がる

十二月六日午後一時より福岡市東公園で「福岡県労働者秋季闘争貫徹総蹶起大会」を開催、三池よりは平島編集部長外各支部より一名宛参加した。当日の参加は福岡市内各労組は勿論、福炭労傘下の各炭鉱は三池、飯塚地区より約一〇〇名程度参加した。

祝辞披露に社会党右派長氏が野次られたことは今次闘争及び社会党右派に対する組織労働者の在り方が注目されることであつた。

司会者より電産、炭労支援の件が提案され、十円カンパ及び一握りの米の供出を決定、続いて各単組要求貫徹に関する件について電産・炭労より提案　炭労よりは日炭高松労組の松島氏より切々と訴え、万場拍手をもつて可決、緊急提案として全逓より簡易保険局庁舎返還の件、海員より抑留船員救援に関する件、全食糧より米の消費者価格値上反対、二重価格制採用の件をそれぞれ決定、宣言文を発表し、各単産より交渉委員を選出、県知事、鉱業連盟、電産に交渉に出発、デモ隊長三井田川炭鉱労組田中組合長の注意があつて炭労を先頭に県庁を経て市役所前まで一万三千の大デモを開始した。みぞれから雨に変化した市街をジグザグの行進をつゞけ又赤旗の歌を唱つて気勢をあげ、五時散会した。

蹶起大会途中、総評力丸事務局長より社会党左派最高顧問松本治一郎氏がラングーンのアジア社会党大会に出席のため十一日出発予定の歓送する会に一時切替えることを提案、これを瞬時して歓送する会に切替え、松本氏は壇上で「反動吉田内閣は公職選挙法違反ということで私に挑戦して来た。売られたケンカは買はねばならない、断じて法廷で私は闘う」とのべ「アジア各国を巡つて本当の労働者同志の話合いを進めて来たい」と国民外交推進の決意を見せた

大会スローガン
△統一闘争で軍事予算を粉砕せよ
△炭労、電産と共に反動資本との決戦に起ち上れ
△最低賃金法を闘いとれ
△全労働者の怒りで吉田内閣を倒せ

電産、闘爭態勢を強化

中労委斡旋案を拒否したあと、闘争強化について討議した結果、二十八日、二日から四十時間電源スト（発電力低下一五%）を実施する第十二次指令を発した。指令の内容は

一、現在行つている職場放棄は引続いて行う。十二月二日午前八時から四十時間の連続電源ストを行う。会社が一般家庭、中小企業の一般線を制限する場合は直ちに大口工場の停電ストに切替える。

一、三日現在実施の状況（電産本部入電）は次の通り

東北三一ケ所八八、六四六KW△関東火力四ケ所二四、二九〇停電スト併用している一九工場一八三、七八七△北陸水力一、七三八、二四〇△関西火力四、一四三、〇〇〇、水力一、二五四、〇〇〇△中国水力五、火力二計一二〇、〇〇〇△四国水力七一七、六〇〇、火力一一〇、〇〇〇△九州火力一九、一一四〇九〇

全日通15日からストへ

既報、全日通労働組合は十一月二十七、八の両日第九回中央委員会を開いた。会社再建案の発表、越年資金要求等困難な闘いの中で開かれた同委員会は中央委員九十一名、中央役員二十七名をもつて熱烈に審議され、再建要綱については、単純な機構改革である限り、基本的には反対せず、労働条件切下げ、首切り、不当配置転換反対の三原則が守られず且県単位独立採算制を撤回しないとすればストをもつて闘うこのため組織態勢を万全にする。再建要綱、越年資金未解決事項（臨時従業員の本採用作業衣無償貸与、結核療養問題、平均賃金）などについては早期解決をはかるため、十二月中旬を目途にスト準備をする。以上のようなスト解決を圧倒的多数で決め、電産、炭労争議の十円カンパを責任徴収する事を決定、委員会終了後翌二十九日直ちに戦術会議を開き種々協議、一切を中執に任すことになり、スト準備指令を発した。これに従い中執で種々情勢を協議した結果、十五日午前一時を期して一齊ストを指令、いよいよ全日通総蹶起の態勢に突入した。

私鐵各地で
スト續行

歳末闘争に立つている私鉄総連さん下の情況（三日現在）は左の如くで関東の場合は四日中に各社別交渉が行われ、妥結点を見出す努力が払われているが、会社側の提案と余りにもかけ離れ、一致点が見出せないところは予定通り五日二十四時間ストに入る

なおその後は七日に第二次ストが予定されている。

関西地連　有力六組合はスト続行中である。会社側の一・四月案に対し、組合側は一・五月に譲歩したのでその差〇・一月となつており、個所折衝により解決を見出す努力が続けられている最悪の場合七日第三次スト決行の予定、妥結せるもの七組合。

中部地連　現在交渉中。

中国地連　山陽鉄道一二、〇〇〇円でスト中であるが、地労委が職権斡旋に乗出した。西大寺は八、〇〇〇円で妥結、岡山電気スト中。

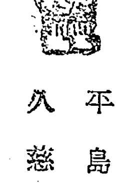
指令第十七號（十日午後四時　東京電話）

一、各支部は十二月十七日一番方より四十八時間坑内外に於ける一切の業務を拒否する準備をせよ。
（但し給水、配給、病院、配電、ボイラー、給食を除く）

組合千一夜（第六十話）

嘉穂爭議に出動して（二）

平島敏治作
久慈悠一畫



「はたかぜ」來る

翌十九日、私達は山野労組ピケ隊員のトラックに同乗嘉穂に向つた　山野のピケ隊員諸君の中には鉄帽を用意しての参加で、四十日からの長期ストで退屈でたまらず闘志を燃やす意味でも参加だと気勢を挙げている人も居た。闘争本部で三池のニュース・カー「はたかぜ」が昨夜到着したことを知らされ、昨日、今日と大手、九共闘の各単組がほとんど五〇名乃至一〇〇名のピケ隊員を動員している姿を見て、地理的な条件が悪いとは云え幾分か肩身の狭い思ひであつたが「はたかぜ」の応援で何かほつとするものを真実考えた。

十時頃田川の「そよかぜ」とともに「はたかぜ」が労働歌をとどろかせて闘争本部前へ進行して来た。三池で見る時よりも一段とスマートで又頼もしく感じた。北岡教宣部長と事務的な打合せをなし中島次長が取あえず帰山して報告することとし、私と北岡部長が「はたかぜ」に同乗して応援することゝした。

嘉穂労組及ピケ隊員が一番困つたのは会社が所有する放送施設で事業所及社宅にデマや威かく放送することで、これに応戦する武器を組合が持たないことであつた　此処に「はたかぜ」「そよかぜ」のこの二輛のニュース・カーの威力が発揮されたのである。

会社側の最高指揮官である堀常務は自ら出馬してマイクにしがみつき「首切るぞ」とおどしつけ又社宅内に職制を利用して切崩しを企ていることを知り　早速ニュース・カーの出動で吾々の真剣な訴えに対して、一時数名の就業者も出る状態であつたが途絶える状態となつた。

「はたかぜ」の出力が大きいので三ケ所で放送すれば完全に情宣活動が出来るのでその機動性というものは万全であつた。これは後日の話であるが、闘争委員が交渉に行つた際ニュース・カーには完全に会社が参つている様であつたとのことで、また三鉱連の中央委員会より帰山した阿具根組合長も東京で他山の人からニュース・カーの活躍について非常に評判がよかつたと話していた。

炭婦協の頑張り

商業新聞でも大々的に取りあげている様に、今次の炭鉱ストのテコは婦人であり、その組織である炭婦協であつたことは間違ひない。

嘉穂本坑の鬼田節子さんは

今日もぞくぞく応援隊
組織の強さをあらわして
赤旗なびく秋の空
主婦は三時にとび起きて
飯を炊いたり、にぎつたり
百姓さんも子供らも
米やお菓子をもつてくる
しつかり、
がんばれお
父ちゃん
最後の勝利
で家はニコ
ニコ暮せま
す

と唄つているよく嘉穂争議の実態をうたつたものである。嘉穂の婦人会は応援に来るピケ隊員に対し当初闘争本部が全然気付いていなかつたとはいえ、各人の家から一合二合と米を出し合つて握りをつくつて其の労苦に報いていたのである。これを知つて只でさえ一粒の米も節約して下さいといつているのにこの様にしたら家庭の台所から参つてしまうと闘争本部で米の心配をする様にしたのである。其の後も延七、八百名程度の人達の握り飯をつくらねばならぬので早朝から深夜へ幾日も続いているのである。

この嘉穂の婦人会の苦労を見かねて日炭高松はじめ各労組の婦人会が米一に幾つかのカンパや飯たきの応援、或ひはピケ隊の激励にトラックに乗つて白いホコリの顔でかけつけてくる様は全く闘ひに自信をつける様であつた。

夕刻ともなればボタ山の陰々に赤旗が夕もやで見えぬ様になるとたき火のあかりが、この嘉穂争議の熾烈さを物語るかの様にあちこちに幾つともなく赤々と炎えている。ピケ隊員の顔はつかれも見せずピケ破りは来ぬかと暖をとつて暮れてゆく。